

⑧ 曲線部ふとん籠（蛇籠）

【 技術者の匠の技 】

土木工事では、多種多様な土木資材を用いますが、これらの資材は時代と共に改良が加えられ、品質向上、省力化を目指して進歩しています。本工事の植栽帯の土留めに適用したふとん籠は、古来は円筒状の竹籠に転石等を詰め、これを並べて河川工事などに使用されてきた伝統的工法です。現在、かごの材料は竹から鋼製へ、製法は手編みから機械編みへ、形状は円筒状から箱状に変わってきています。また、本工法は、その完成形状が「へビ」に似た形状に組み上がることに由来して「蛇籠」とも呼ばれますが、現場では曲線部のふとん籠が手編みで連結されて、まさに由来どおり、蛇の如く整然と設置された施工技術です。

【 一般的な曲線部のふとん籠 】



【 整備状況 】



【 大分川ダムの曲線部のふとん籠（蛇籠） 】

